

# ア ジ ア 日 誌

3 月 15 日 — 4 月 14 日

## 東 ア ジ ア

中国, 台湾, 南北朝鮮, モンゴル, チベット, 香港, 日本

3 月 15 日

◇ハリマン米國務次官補, 来日。  
◇中共, 6月にチベットのサバクで原爆実験か。

3 月 16 日

◇韓国, 「政治活動浄化法」を公布。軍事政権初の民政移管準備として旧政治家を資格審査。  
◇ハリマン米國務次官補ソウルに到着, 朴議長らと会談。  
◇日韓会談の崔外務部長官, 岡交正常化以前の日本代表部設置を拒否。

3 月 17 日

◇米の軍事技術開発調査団, 26日米日し, 日本が兵たん基地に適當かを視察, 東南アジア向け兵器調達も検討の予定。  
◇日韓外相会談終わる。懸案並行のまま日本側は京城を会談を留保。  
◇米国, 南朝鮮で着々と軍備増強。全羅南道に空軍基地を, 慶尚北道に「補給倉庫」を建設すると発表。  
◇陳毅中国副総理アラブ連合貿易代表と会見, 両国貿易協定に調印。  
◇李承晩元韓国大統領, 帰国を延期。  
◇韓国政府, 李前大統領の帰国を阻止しないと発表。

3 月 18 日

◇米商務省, 香港の綿製品輸入禁止。  
◇中国援助のベトナム工業センター誕生。発電, 製紙など18工場が完成。

3 月 19 日

◇池田首相, 小坂外相, 日韓問題, 日米貿易などについてハリマン米次官補と会談。  
◇エカフェ東京総会閉幕。  
◇米, 沖縄新政策を発表。「日本の領土」を確認, 援助増加, 自治拡大

の軍事面との調整はかる。

◇米, 沖縄民政への措置に関する行政命令。行政主席は立法院で指名。

3 月 20 日

◇米國務省, 蒋介石國府総統への批判記録書を含む戦時中の中国関係文書を公表。  
◇カール・ケイセン米政府沖縄調査団長, ケネディ新政策で沖縄主権に新解釈はないと語る。  
◇琉球米陸軍司令部, 西表島で演習を行なうと発表。  
◇米独占資本の台湾進出激化。米国の石油会社と台湾政府の経営する「中国石油会社」の協定調印。米の金属会社による台湾最大の民営鉄鋼工場の貸借りなど。

3 月 22 日

◇尹韓国大統領, 辞任声明。旧政治家制裁法規は国の團結にひびが入ると指摘。  
◇米國務省, 尹大統領の辞任は米国の韓国承認に影響しないと声明。  
◇日本政府外務省, 韓国の軍事政権いぜん合法と説明。  
◇中共人民代表大会, 予備会議で議題を採決。  
◇中国の青年, 婦人など5団体, アルジェリア人民の勝利に祝電。

3 月 23 日

◇インドで迫害を受けた華僑, 北京に帰着。  
◇中国人民解放軍, 春耕を支持。  
◇米政府, 中共, 北鮮への穀物輸出を拒否。  
◇中共, チベット通商協定でインドに再度申し入れ。  
◇米軍の沖縄補償, 戦後5カ年分約2000万ドルで妥結。

3 月 24 日

◇韓国最高会議, 尹大統領辞任を可決。朴議長が職務代行。  
◇日本のカンボジア援助進まず, 未熟な現地地で問題化。

◇韓国の李錫済法制司法分科委員長, 浄化法での政界追放は約3000人になると語る。

◇国府国防部, 中国機が金門島へ飛来したと発表。

3 月 26 日

◇韓国の張勉前総理, 政治活動浄化法に対する非難の声明を発表。

3 月 27 日

◇中国天津の港湾労働者, 日本港湾労働者の闘争を支援して集会。  
◇中国第2期全国人民代表大会開く。

3 月 28 日

◇中国紅十字会, アルバニア地震被災者に2万元贈る。  
◇ハリマン米國務次官補, ソ連の対中共援助は停止され, 技術者も引揚げていると言声。  
◇米国海軍兵器局視察団来日。  
◇プライス米下院議員, 沖縄援助法修正案を下院に提出。

3 月 29 日

◇カンボジア, 南ヴェトナム兩國政府, 日本からの繊維製品の輸入について全面禁止に近い制限措置。  
◇中共・フィンランド貿易協定調印。  
◇米国神仲士組合, 日本港湾労働者のストを支持。

3 月 30 日

◇韓国最高会議, 政治活動禁止の対象者の第1次分2907人の氏名を発表。  
◇カンボジア・北朝鮮, 共同声明発表。  
◇韓国初の原子炉運転を開始。米国ゼネラル・アトミック社設計, 製作による熱出力100キロワットのもの。  
◇ソ連, 日本商社員の滞在を1年に限定。

3 月 31 日

◇日本とインド, インドに水産加工訓練センター設立の協定書に調印。

◇韓国通信省当局者、西独政府が韓国国内の電話施設拡充のため韓国に875万ドルの借款を供与することになったと発表。

◇モンゴルと米国の観光客交換協定、調印さる。

4月1日

◇中共、米に漁船沈没の損害賠償を要求。

◇レムニッツァー米統合参謀本部議長、沖縄から韓国へ向かう。

4月2日

◇アジア文相会議開催。

◇日本政府、シリア総領事館を大使館に昇格、タンガニカ、ガボン、カメルーンに大使館新設を決定。

◇北朝鮮・カンボジア、領事外交関係樹立に同意。

4月3日

◇小坂外相、ヴェトナム、カンボジアの輸入禁止令で日本への影響はそれぞれ500～600万ドル、200万ドル程度と報告。

◇沖縄警察本部、インドネシア近海に出漁中の沖縄のマグロ漁船が国籍不明機に銃撃され、3人が重傷を負ったとの連絡を受ける。

◇日本政府、日ソ漁業条約違反の捕獲船の引き渡し手続きについて両国政府の交渉がまとまり、口上書を交換したと発表。

◇レムニッツァー米統合参謀本部議長、南朝鮮軍首脳と会談。

4月4日

◇ソウル発合同通信、米国のRCA会社は韓国にテンビ組み立て工場を建設するための借款を提供することになったと報道。

◇米統合参謀本部議長レムニッツァー大将、立川基地に到着。

4月5日

◇中ソ合同黒竜江調査学術委員会開く。

◇17日から開かれる第1回アジア農業協同組合会議に日本は、「国際金融機関の設置」と「組合貿易の促進」を中心議題として提案の予定。

◇米統合参謀本部議長レムニッツァー大将、藤枝防衛庁長官と会談。

◇北朝鮮最高人民会議開く。

◇インドネシア海軍当局、沖縄のマ

グロ船第1球陽丸は領海を侵し、船名標示にも違反したため銃撃されたと発表。

◇日本政府、ラオスとの経済技術協力合同委員会代表に駐ラオス大使藤見幸雄氏を任命することに決定。

4月6日

◇韓国、日韓会談の早期妥結を強く希望し、非公式に再開申し入れ。

4月7日

◇国際青年会議所大阪会議、麻薬防止の決議などを承認。

◇英貿易使節団、日本を親善旅行するためロンドンを出発。

4月8日

◇アフガン通商使節団来日。

◇中国共産党中央機関紙「人民日報」に新風。政治面の民主化、経済面の緩和の方向を打ち出すとともに、「読者来信」欄を設け、読者からの批判をのせはじめる。

4月9日

◇日ソ文化交流会談、不成立に終わる。

◇米軍測量隊、八丈島ロラン（長距離航法援助施設）建設予定地の基礎調査のため同島に到着。

4月10日

◇韓国外交権威筋、日韓会談の懸案を妥結して5月中に国交正常化の仮調印を行なうという内定の秘密文書が日韓双方の首席代表の間で交換されている事実を暴露。

◇韓国、イスラエルと外交関係樹立。

◇タイのブーン・チャルーンチャイ工業相来日。

4月11日

◇周恩来首相、ギニア訪問を受諾。

◇中共外交部スポークスマン、米機と米艦侵入に対し、嚴重警告を発す。

◇エチオピア政府、日本の繊維製品、セメントなどの関税引き上げ実施を発表。

◇北朝鮮・チェコ、62年度文化計画に調印。

4月12日

◇中国最大の漁場舟山列島で加工工場完成。

◇タイ工業相、池田首相を訪問、タイ特別円新協定批准に対する首相の

努力に謝意を表明。

◇タイ工業相、佐藤通産相にタイ国の鉱物資源調査と製鉄所の建設につき協力を申し入れた。

◇日本政府は、インドネシアの漁業基地建設計画をとりあげる方針で、インドネシア政府と具体的交渉を進めることを決定。

4月13日

◇周恩来首相、ネール首相の再任に祝電。

◇パトリチェフ外国貿易相を団長とするソ連貿易経済代表団、北京訪問。

◇中共外交部、中印国境問題につき平和解決への努力を続けるとの談話を発表。

◇中国・アルバニア汽船会社営業開始。

4月14日

◇韓国当局、日本製車両を調達するための人札を破棄。

### 東南アジア

フィリピン、タイ、南・北ヴェトナム、ラオス、カンボジア、マラヤ、シンガポール、インドネシア、北ボルネオ、サラワク

3月15日

◇フィリピン、日本人業者の滞在期間を6カ月にもどすと発表。

◇カンボジア、東独と総領事交換。

◇北ヴェトナム政府、南ヴェトナムへの米国の武力侵略をやめさせるようジュネーブ会議の共同議長国（英ソ）へ要請。

◇北ヴェトナムの国営農場急速に発展。1961年の開墾面積は1960年の2.5倍、作付面積も2倍になる。

◇AA連帯機構（在カイロ）、米国の対ラオス干渉を非難。

3月16日

◇米軍事援助司令部、行方不明の米軍用機は南ヴェトナムへむかう途中であったことを確認。

◇米、ラオス右派に対する援助資金の交付をさらに停止。

3月17日

◇インドネシア代表団、西イリアン問題解決のためのオランダとの秘密

会談出席のため米国へ出発。

◇米海軍、フィリピンで陸海空軍演習。

◇ソ連、米の南ヴェトナム撤兵要求、「協定違反」非難の声明を発表。

◇ソ連、英ソ両国が共同で、米国の南ヴェトナムへの内政干渉をやめるよう呼びかけることを英に提案。

3月18日

◇スカルノ・インドネシア大統領、西イリアンについての非公式会談が不調ならば全面戦争も辞さないと言明。オランダ側に対し警告。

◇米国、1年以内に南ヴェトナム派遣軍人を7000人に増員の計画発表。

3月19日

◇オランダ政府、西イリアン紛争の調整のためインドネシアとの予備会談を20日、米国で始めると発表。

◇南ヴェトナム・ゲリラ隊、日本人とフィリピン人2人を釈放。

◇フィリピン議会、北ボルネオ地区回復を要求。

3月20日

◇西イリアン問題調整のための秘密会談始まる。

◇ラオス右派、韓国と外交関係を結ぶと発表。

3月21日

◇インドネシア海軍捕虜、オランダ側の拷問、虐待を告発。

3月22日

◇フィリピン外務省の高官、350人以上の日本人の同時滞比は認めないと語る。

◇西イリアン問題に関するインドネシア・オランダ間交渉、数日間休会。

3月23日

◇シアスーク・カンボジア元首、ベンヘッダ・アルジェリア首相へ祝電。

◇スカルノ大統領、西イリアン解放で三年に命令。

◇西イリアン問題の予備的討議終わる。

◇レムニッツァー米統合参謀本部議長、東南アジア視察のため出発。

3月24日

◇カンボジアで中国の援助による製紙工場完成。

◇米は南ヴェトナムを「特殊戦争」

の実験場としていると人民日報オブザーバーが論評。

◇インドネシア外相、西イリアン交渉は進展していないと述べる。

3月25日

◇ハリマン米次官補、ラオスに到着。ラオス連立政権を樹立するよう右派を説得したが失敗。

◇ノサバン・ラオス副首相、和平会談の再開を声明。ブンム首相、プーマ殿下を招請。

◇オランダ政府、西イリアン上陸を企てたインドネシア軍を撃退したと発表。

◇インドネシア・オランダ秘密和平交渉のマリク・インドネシア首席代表、交渉の行き詰まりにつき政府と協議のためジャカルタに帰着。

3月26日

◇南ヴェトナム政府、軍民の協力による「自衛部落」を各地に作り防衛網を組織する「日の出作戦」を開始。

◇スカルノ・インドネシア大統領、オランダとの秘密交渉断絶を声明。

◇ハリマン米國務次官補、ノサバン首相にプーマ首相と協力するよう要請したが拒否されたと発表。

3月27日

◇オランダ政府、4軍艦に西イリアンへの出港を命令。

3月28日

◇北ヴェトナム、ハンガリーも貿易協定書に調印。

◇インドネシア共産党アイデット議長、スカルノ大統領の交渉代表召還決定を歓迎。

◇レムニッツァー米統合参謀本部議長、ゴ・ジンジェム大統領と会談。

◇北ヴェトナム人民軍、レムニッツァー米統合参謀本部議長のサイゴン入りに抗議。

3月29日

◇ホー・チミン・北ヴェトナム大統領、米の南ヴェトナム干渉を非難。

◇カンボジア・南ヴェトナム両国政府、日本からの繊維製品の輸入について全面禁止に近い制限措置。

3月30日

◇インドネシアと外国商社、石油協定について合意。

◇ケネディ大統領、スカルノ・イン

ドネシア大統領に書簡を送り、西イリアン交渉再開を要請。

3月31日

◇南ヴェトナムの降下部隊、サイゴンの米軍事援助司令部の指示で米軍の直接指揮下にはいる。

◇南ヴェトナム解放通信社、カモウ州で人民自衛隊が、米国とゴ・ジンジェム派の掃討に反抗して戦っていると報道。

4月1日

◇シンガポール政府、日本企業の受け入れにつき話し合いをすすめるため東京事務所を開設。

◇AA連帯機構、西イリアン問題で米国のオランダ支持を非難。

◇ジャカルタ放送、西イリアン沖のワイゲオ島が解放されたと報道。

◇レムニッツァー米統合参謀本部議長、南ヴェトナムの情勢は楽観できず日本、韓国、沖縄駐留の米軍が出動できる準備を進めていると言明。

4月2日

◇インドネシア政府、対オランダ会談の再開に同意。

◇北朝鮮・カンボジア、領事外交関係樹立に同意。

4月3日

◇インドネシア青年隊西イリアンへ上陸とナスチオン国家保安相が発表。

4月4日

◇タイ、マラヤ、フィリピン3国外相、ASA推進の秘密会談のためマラヤのカメロン高地に到着。

◇北ヴェトナム重工業部門、第1・4半期の計画を2.3%上回ると発表。

◇オランダ共産党、政府の西イリアン派兵に反対と語る。

4月5日

◇SEATO司令部、23日から30日までクイ国内で、米、英、仏、オーストラリア、タイの陸、空軍が参加して軍事演習を行なうと発表。

◇北ヴェトナム人民軍連絡代表団、米国の南ヴェトナムへの潜水艦派遣に抗議。

4月6日

◇エッソ・スタンダード・イースタン石油とシェル石油会社、南ヴェトナムに大精油所を建設する取り決めを同政府と結んだと発表。

◇オランダ下院、「ババア人の将来の発展に対する最大の保証」つきで西イリアンを移譲することについてインドネシアと交渉するよう要請した労働党の決議案を否決。

◇ソ連援助でインドネシアに最初の製鋼所を建設する契約調印。

◇世界保健機関(WHO)、コレラ大流行のおそれがあり、西太平洋、東南アジア16カ国の公衆衛生専門家は今月中旬、マニラでその対策検討のため会議を開く予定であると発表。

4月6日

◇ウ・タント同連臨時事務総長、西イリアン問題の解決策として、同地域を2年間同連の信託統治下におく案をオランダ政府に提示したという。

◇ASA外相会議終わる。

◇マラヤのアジス・ビン・イシャク農相、日本の農民救人を招き稲作技術を導入すると語る。

4月7日

◇東南アジア連合(ASA)外相会議、同連合機構を計画の段階から実行の段階に移し、当分は地域的協力を積み重ねていこうと結論。

◇インドネシア政府、「経済活動最高司令部」を設置し、スカルノ大統領がその最高司令官に就任を決定。

4月9日

◇バンカー元駐印米大使、西イリアン問題打開のための提案を行なう。2年を期限として西イリアンの行政権をオランダからインドネシアに委譲することを内容とするもの。

◇オランダ政府、あっせん案に失望。

4月10日

◇ボーリング博士ら16人の米知識人、大統領に公開状を送り、南ヴェトナムへの軍事介入に強く反対。

◇ラオスで米機5機破壊さる。

◇スカルノ大統領「西イリアンの委譲を2年も待つことはできない」と語る。

4月11日

◇ソ連AA連帯委、「米は南ヴェトナム干渉を中止せよ」と声明。

◇南ヴェトナム当局、1万7000村を「戦略部落」化する計画を発表。

4月12日

◇オランダ下院、西イリアン問題に関するバンカー提案審議を5月まで延期することを決定。

◇スカルノ大統領、年内に西イリアン統一を行なうと誓明。

◇南ヴェトナム民族解放戦線「影の政府」を結成。

4月13日

◇ベン・ヌート・カンボジア首席閣僚、広州着。

◇フィリピン、ギド政権を承認。

◇SEATO内に対立が生じ、同条約機構理事会は春の年次会議を取り止めることにしたと伝えられる。

◇南ヴェトナム民族解放戦線、基本方針を発表。独立回復と中立政策。

## 南 ア ジ ア

インド、パキスタン、セイロン、ビルマ、ネパール、ブータン

3月16日

◇インド議会、国境紛争に関する中印交換文書を発表。

3月17日

◇セイロン、治安特別立法を可決。

3月19日

◇ネール・インド首相、米国に対し軍縮会議中の核実験中止を要請。

3月24日

◇インドの調査団、日本のレーダを買うため31日米日の予定。

◇フセイン・パキスタン選挙管理委員長、国会選挙を4月28日、地方議会選挙を5月6日に実施と発表。

3月25日

◇ソ連赤十字社執行委員会、小児マヒワクチンをセイロンに贈った。

3月26日

◇ビルマ革命政府、中共技術者300人以上が北部国境地区水力発電所建設と南部の製紙工場建設のため、4月ラングーンに到着すると発表。

3月30日

◇ハミルトン米国際開発局長官、インドに1億2000万ドルの借款を新たに与えると発表。

4月2日

◇日本外務省筋によると、インド、パキスタン両政府は日本が供与した円借款の対象の拡大を要請。

4月6日

◇セイロン政府、昨年4月からの非常事態を緩和し新聞検閲、集会禁止などを解除すると発表。

◇東パキスタンで新憲法、選挙に反対する運動が学生を中心に高まり、アユブ大統領の軍政から民政への切り替え予定は大きな困難に直面。

4月7日

◇米国際開発局(AID)資金によるパキスタンの尿素肥料6万トンのうち、日本は4万5000トン花落。これは米政府のバイ・アメリカン(米商品優先買付)政策緩和の第1号。

4月10日

◇インド新内閣就任式を行なう。

4月14日

◇インド外務相、中共の国境問題声明に反論。

## 西 南 ア ジ ア

アフガニスタン、イラン、イラク、サウジアラビア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、シリア、バーレン、クエート、カタール

3月17日

◇イラク政府、日本がクエートを承認したことに抗議して駐日大使を召還することに決定。

◇イスラエル、シリア両軍ガレリー湖東岸で戦闘、まもなく停戦。

3月28日

◇シリア軍部無血クーデターに成功。大統領、首相をはじめ閣僚解任、国会解散。

3月31日

◇アラブ連盟理事会、サウジアビアのリヤドで開催。加盟10カ国のうちイラクを除く9カ国が参加。

4月1日

◇シリア軍事委の説得でシリア北部の情勢は平静化と伝えられる。

◇レバノンの新聞によるとダマスカス北方のホムス市で親ナセル派のデ

≠隊と軍隊が衝突、数名が死傷。  
 ◇サウジアラビア国王、アラブ連盟理事会で決定したアルジェリア支援決議に基づきG P R Aへ100万ポンドの経済援助を決定。

4月2日

◇ダマスカス放送、シリア軍司令部の声明として「シリアの新政権はエジプトを先頭とするアラブ諸国の連合を支持する」と述べた。

◇シリアで軍部が政権返還、クドシ大統領返り咲く。

◇米第6艦隊の一部バイルートに入港。

4月3日

◇ダマスカス放送、アレppo部隊が降伏し、シリア軍事政権とアレppo部隊との紛争は終結したと報道。

4月10日

◇イスラエル、韓国と外交関係樹立。

4月11日

◇パーレビ・イラン皇帝、米国訪問。

## アフリカ

3月15日

◇マリノフスキー・ソ連国防相モロッコ訪問。

3月17日

◇英植民地自由化団体、ギゼンガ氏釈放を要求。

◇ガーナ政府、英国の会社を接收。

3月19日

◇ソ連、ベンヘッダ・アルジェリア臨時政府を承認。

◇仏・アルジェリア停戦協定発効。

◇アイユレ・アルジェリア仏軍総司令官、指導下の全部隊に対し混乱を防ぐため必要ならば直接行動にでよう命令。

◇アルジェ、ゼネストで完全にマヒ。

3月20日

◇フランス政府、アルジェリア自決投票は「7月31日」と発表。

3月22日

◇東独・ギニア、パートナー議定書に調印。

◇フランス国民議会、アルジェリア、フランス協定の討議を終了。

◇南アの全アフリカ人会議代表、フルウェルト政権の民族隔離政策に対する米国の支持を非難。

3月23日

◇ハンガリー・朝鮮両国首相、アルジェリア首相に祝電。

◇仏軍正規兵、O A Sと初の交戦。

3月24日

◇ベンヘッダ・アルジェリア臨時政府首相、中国大使と会見。

3月25日

◇アルジェリアのフランス軍、O A Sの指導者ジュオー元将軍を逮捕。

◇アフリカ・マダガスカル機構加盟諸国首脳会議開催。

3月27日

◇アルジェリアの政治指導者アブデルラーマン・ファレス氏、アルジェリア暫定行政府の首席就任を受諾。  
 ◇A A連帯委、ギゼンガ氏の不当逮捕に抗議を呼びかける。

3月28日

◇アフリカ・マダガスカル同盟首脳会議開く。

4月2日

◇マリ、モロッコ、ギニア、ガーナ、アルジェリア臨時政府、アラブ連合のカサブランカ諸国は、アフリカ共同市場の結成に合意。

4月5日

◇ケニアのアフリカ人政党指導者、ケニアに1963年までに独立を与えるという英国の憲法案に調印を決定。

◇アンゴラ人民同盟総裁ホルデン・ロベルト氏、「アンゴラ共和国臨時政府」樹立を宣言し、同氏が首相に就任すると発表。

4月6日

◇ケニア制憲会議、1963年までにケニア独立を認める憲法案に調印。

4月11日

◇エチオピア政府、日本の繊維製品、セメントなどの関税引き上げ実施を発表。

4月13日

◇南アフリカのバナナ貿易業者、価格維持のため大量のバナナを廃棄。

4月14日

◇ガーナのゴカ蔵相、カサブランカ派6カ国がアフリカ共同市場を設立したと発表。

## その他

3月18日

◇レムニッツァー米統合参謀本部議長、種東訪問に出発。

3月22日

◇ブルガリア、アルジェリア臨時政府承認。

3月24日

◇米政府、キューバ産原料で作った商品の全部または一部の輸入に禁止措置。

3月25日

◇アジア生産性機構理事会、8カ国参加で26日から開かれる予定。

3月26日

◇アジア生産性機構第2回理事会開催。

3月27日

◇ブラジル共産党40周年記念集會に5000人以上が出席。

3月30日

◇A P O (アジア生産性機構) 第2回理事会終わる。

3月31日

◇ワシントン・ポスト紙、マクナマラ長官が海外11基地を含む97の米基地施設の閉鎖に関する言明を報道。

4月4日

◇国際青年会議所会議開催。インド、ビルマ、フィリピン、韓国、タイなど15カ国約1800名が参加。

4月6日

◇米国、ブラジルに新借款供与。

4月9日

◇マクナマラ米国防長官、上院外交委で種東への軍事援助を強調。

4月12日

◇国連の人権委員会、アジア・アフリカの低開発諸国に通信社など情報メディアを新設するため34億ドルを支出する計画を承認。